No.422 2026.11.5

京機短信

KEIKI short letter

京機会（京都大学機械系同窓会）　tel. & fax. 075-383-3713
E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp
URL: https://keikikai.jp
編集責任者　京機短信編集委員会

目次

・中部・関東地区工場見学旅行の参加報告……納谷岳都（pp. 2 – 5）
・’83同窓会の報告……今谷勝次（p. 6）
・済州島と江華島旅行記……藤川卓爾（pp. 7 – 11）
・70歳からの働く場づくりのご紹介……森本暁明（pp. 12 – 14）



工場見学会　中部支部主催懇親会



工場見学会　関東支部主催懇親会

中部・関東地区工場見学旅行の参加報告

学生会SMILE　納谷岳都（R8/2026卒）

令和8年9月28日～30日に、中部・関東地区工場見学会を学生会SMILEと大学の共催で開催しました。中部地区ではDMG森精機株式会社、日本製鉄株式会社の2か所、関東地区では東京エレクトロン株式会社、株式会社IHI、日本航空株式会社（JAL）の3か所、計5か所の工場・施設を学生28名と教員2名で見学させていただきました。

1. 9月28日

まず、DMG森精機株式会社の伊賀事業所を訪れました。組立工場、開発センター、精密加工工場、主軸工場などを見学し、工作機械がどのように作られているのかを間近で見ることができました。また、工作機械が実際にどのような製品の製造に使われているのかといった技術的なお話だけでなく、伊賀での暮らしについても伺い、働く環境まで含めて幅広く知ることができました。見学後には社員レストランで昼食をいただきました。

午後は、中部支部第40回技術交流会との合同企画として日本製鉄株式会社の名古屋製鉄所を見学しました。広大な製鉄所の中を巡り、高炉本体の一部であるマンテルを間近で見せていただいた他、めっき工程では鋼板が巻き取られていく様子、連続鋳造工程ではスラブが切断される様子を見学しました。実際の製造現場で感じる大きさや音､そしてスラブから伝わってくる輻射熱は非常に迫力があり、鉄づくりのスケールの大きさを実感しました。また､OBの皆様にも見学にご同行いただき、見学後の質問会では仕事内容や製鉄所で働くことについて様々なお話を伺うことができました。

工場見学後には懇親会も開いていただきました｡豪華な食事をいただきながら、中部支部のOBの皆様と､仕事のことから学生生活のことまで様々なお話をすることができ、普段の大学生活では得られない貴重な交流の機会となりました。その後はDMG森精機の宿舎に宿泊させていただきました｡宿舎とは思えないほど設備が充実しており､非常に快適で豪華な環境に学生一同驚きながら､1日目を終えました。



DMG森精機工場見学

2. 9月29日

2日目は、東京エレクトロン株式会社の穂坂事業所を見学しました。半導体の成膜装置の製造工程や、装置内部で使用されるロボットハンドの実験室などを見せていただきました。半導体というと電気・電子系のイメージを持っていた学生も多い中、装置の製造や搬送機構などを実際に見ることで、機械系の技術者が半導体製造装置にどのように携わっているのかを知ることができました。見学後には京都大学の先輩方にも集まっていただき、お弁当をいただきながら交流会を行いました。実際の仕事内容や職場での生活、就職活動についてなど、学生から多くの質問が飛び交い、和やかな雰囲気の中で交流することができました。

夜には横浜・関内で関東支部の懇親会を開いていただきました。今回の工場見学では訪問しなかった企業に勤務されている先輩方にもご参加いただき、様々な



東京エレクトロン工場見学

業界で働くOBの皆様から、仕事や就職活動、社会人生活についてお話を伺いました。学生にとって自分の将来を考える上でも非常に有意義な時間となりました。

3. 9月30日

最終日は、まず株式会社IHIの横浜事業所を訪問しました。展示を通してIHIの歴史やこれまで手掛けてきた製品について学んだ後、航空エンジンのファンブレードの製造工程や、アンモニアを燃料として利用するガスタービンを見学しました。ファンブレードでは、複雑で精密な形状を一枚ずつ作り上げていく技術や、一つひとつの部品が非常に高い価値を持つことを知り、航空エンジンに求められる技術の高さを感じました。IHIが航空エンジンだけでなく、エネルギーや船舶をはじめ幅広い分野で事業を展開しているからこそ、それぞれの分野で培った技術や知見を結び付けながら新しい技術に取り組めるという点も印象に残りました。見学後には、お弁当をいただきながら京都大学の先輩方との座談会を開いていただきました。幅広い事業を展開する企業での働き方や仕事内容について、学生から多くの質問をさせていただきました。



IHI工場見学

最後に、日本航空株式会社（JAL）の羽田整備工場を訪れました。はじめに説明や質問会を通して、JALの事業や航空機整備の仕事内容について詳しく教えていただき、その後、実際の格納庫を見学しました。普段は空港の窓越しに見る航空機を間近で見ると想像以上の大きさで、整備中の機体が並ぶ光景には圧倒されました。また、一機の航空機を安全に運航するために、整備士をはじめ多くの方々が

それぞれの役割を担っていることを知り、普段何気なく利用している航空機が多くの人の仕事によって支えられていることを改めて実感しました。併設されたミュージアムでも、航空に関する様々な展示や体験コーナーを楽しむことができ、3日間の工場見学会を締めくくりました。



日本航空工場見学

今回の工場見学会では、工作機械、鉄鋼、半導体製造装置、重工業、航空運輸と、異なる分野の企業や施設を3日間で訪問しました。それぞれの現場を実際に見ることで、大学で学んでいる機械工学が様々な産業の中でどのように生かされているのかを知ることができました。また、各企業や懇親会でOBの皆様から直接お話を伺えたことで、仕事内容だけでなく、企業で働くことや将来のキャリアについて考える貴重な機会となりました。

最後になりましたが、お忙しい中、見学を受け入れてくださった各企業の皆様、交流会や懇親会にご参加くださったOBの皆様、そして今回の工場見学会の実施にあたり多大なるご協力をいただいた中部支部・関東支部をはじめとする京機会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、本工場見学会の参加学生に対しては、機械系教室（第二世紀記念事業会）ならびに京機会からのご支援もいただいております。重ねて感謝申し上げます。

❦❦❦

’83同窓会の報告

今谷勝次（S58/1983卒）

1983年卒（+’79入、’85修）の学年同窓会が、10月17日に京都駅八条口にある「ホテル京阪 京都グランデ」で開催されました。この同期会は、概ね夏冬のオリンピックの年にあたる2年ごとに開いています。前回に比べて参加者が増え、合計38名が集う盛会となりました。

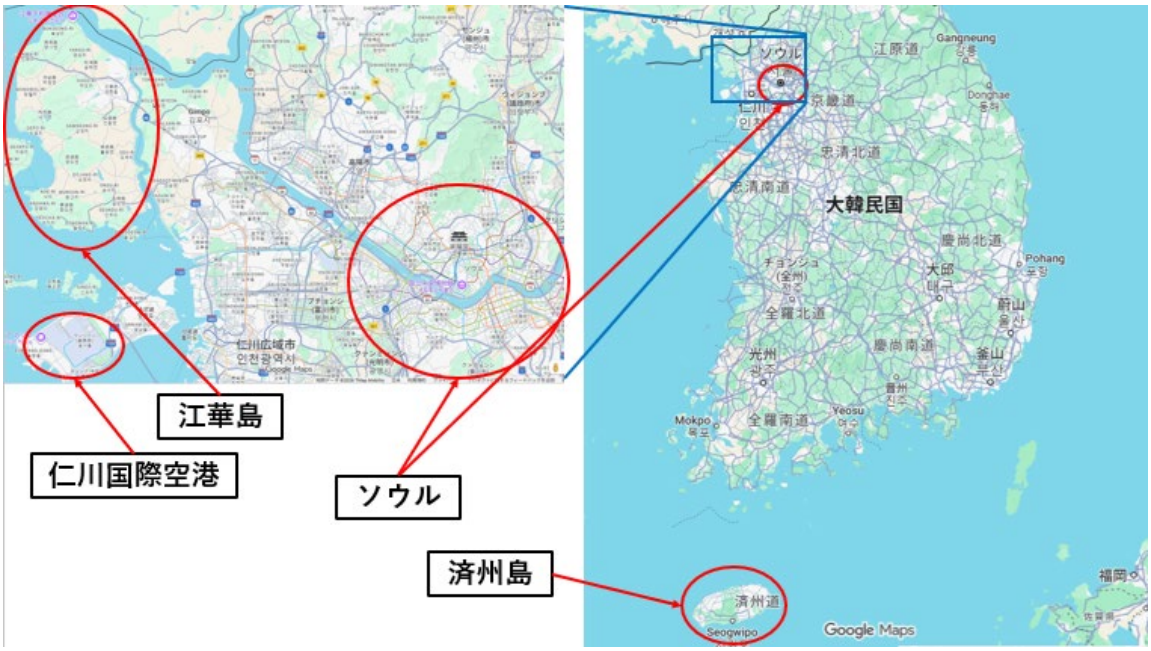
今回は、20年以上のドイツ滞在を終えて自宅に戻った平塚君の発声にて開宴しました。皆が65歳を迎え、これまでのキャリア、日常生活の変化、継続している仕事についてなど、それぞれの近況報告を聞くままに時間はあっという間に過ぎていきました。その後は会場を移しての二次会へと続きました。次回は2028年の予定です。



済州島と江華島旅行記

藤川卓爾（S42/1967卒）

韓国に住んでいた時に済州島と江華島に旅行に行った。



済州島と江華島

済州島（チェジュド）は朝鮮半島の南西部にある楕円形をした火山島である。面積は約1,800km^{2}で日本の都道府県では最小の大阪府や香川県より少し狭い。古くは建国神話もある独立国であったが、高麗時代に直轄領として組み込まれた。朝鮮王朝時代には江華島と並ぶ流刑地であった。第二次世界大戦後、南北対立の事件にも巻き込まれたが、その後は観光地として開発が進められた。

観光ガイドの話では昔の言い伝えに「済州島にないものが三つ」と聞いた。

① 門がない

・伝統家屋に門を作らない風習があった。

・代わりにトルハルバン（石像）や石垣で境界を示した。

・共同体が強く、家を閉ざす必要がなかった。

② 泥棒がいない

・島社会は互いに顔見知りで、盗みが成立しにくかった。

・生活物資が少なく、盗むほどの財産がなかった。

・共同体の監視が強く、犯罪が起きにくい社会構造であった。

③ 男がいない

・出稼ぎ・漁労・軍役で男性が長期間不在になりがちであった。

・そのため、家を守り、働き、稼ぐのは女性（海女＝ヘニョ）が中心。

・「男がいない」は、女性が社会の主役だったことを示す比喩。

火山島であるので山や滝など自然が変化に富んでいる。最高峰の漢拏山（ハンラサン：標高1,950m）には登らなかったが、北東部の城山日出峯（ソンサンイルチュルポン）に登った。また、南部の天帝淵の滝や正房の滝を見た。北部の空港から島を横断して南部に行く途中に「神秘道路」というところがある。目の錯覚で上り坂に見えるところを車が自然に下る。



城山日出峯



神秘道路



天帝淵の滝



正房の滝

西帰浦（ソギポ）という港で潜水艇に乗った。北欧製の潜水艇で海面下40mまで潜って沢山の魚を見た。




潜水艇の窓からの景色

江華島（カンファド）はソウルの西北、仁川国際空港の北にある。面積は約400km^{2}で淡路島の2/3くらいで比較的フラットな島である。紀元前から人が住んでいた痕跡があり、世界遺産に登録されている支石墓が有名である。漢江の河口で黄海に面しているという地政学的に重要な地点であり、江華島事件などが起こった。

富近里（プグンリ）のコインドル（支石墓）は江華島の北部にある。ここには江華歴史博物館があり、江華島事件のジオラマなど江華島の歴史資料を展示している。江華島事件は明治8年（1875）に開国を迫る日本と鎖国を続ける朝鮮の間で起きた軍事衝突事件で、事件後日朝修好条規が結ばれ朝鮮は開国した。


江華歴史博物館


江華島事件ジオラマ

コインドルは紀元前に大きな石で造られた墓である。支石墓には、足の長い石柱に大石を載せテーブル状に石を組んだ「北方式」と短い石柱に大石を載せ碁盤状に石を組んだ「南方式」があるが、ここのコインドルは「北方式」である。



江華島のコインドル（支石墓）

江華島の北端には江華平和展望台がある。道中に韓国軍の検問所があるが余り物々しい雰囲気ではなかった。真北の幅約3kmの川は漢江の最下流で北朝鮮との国境である。漢江は少し上流側で支流の臨津江（イムジン川）と合流する。

筆者はナイアガラの滝の米加国境やサンディエゴ/ティファナ・カレキシコ/メヒカリの米墨国境、アルザス・ロレーヌの仏独国境を越えたことがあるが、ここは越えられない国境なのだと感じた。



江華平和展望台から対岸の北朝鮮を望む

傳燈寺（チョンドンサ）は、江華島の南側に位置する千年古刹である。高句麗の阿道和尚が建てたと伝えられており、高麗の忠烈王の貞和王妃が仏殿に玉灯を献納して以来、傳燈寺と呼ぶようになった。朝鮮王朝時代には弾圧を受けて衰退した。現在では観光スポットとして復活しテンプルステイなども人気のようである。





江華島の傳燈寺

韓国から帰国して 10 年が過ぎ、在留当時ほんの少しだけ話せるようになった韓国語も忘れてしまったが、上記 2 島への旅行は懐かしい思い出である。

❦❦❦

70歳からの働く場づくりのご紹介

特定非営利活動法人（NPO）京都イノベーション・リソース
森本暁明（S45/1970卒）

1. 京都イノベーション・リソースについて

京都イノベーション・リソース（略称KIR）は2011年5月に設立認可されたNPO法人で、京都大学機械系教室卒業生（京機会）有志が集まり、企業のオープンイノベーション促進や新産業創出の推進に貢献することを目的に活動しています。京大機械系教員の方々のご協力や京機会のネットワークを通じて、国内外の大学や研究機関、企業との協働・協創をめざしています。

活動範囲の拡大と共に、機械系以外の工学分野や経済など文系分野も含めた人材が集い、出身分野を問わず同じ志を持つ者の集団へと発展しています。

また、会員それぞれの人生観や活動スタイルを尊重して柔軟な運営を心掛けていること、会員の得意分野や興味のあることを活かした活動が社会貢献につながるように意識をして運営していることが特徴です。

この数年私たちは4つの主要テーマすなわち、1. 産学連携推進、2. イノベーション支援、3. 中小企業支援、4. 70歳からの起業支援を柱に活動しています。

今回ご紹介したいのは、4. の高齢者の働く場づくりのための起業支援です。

我が国では急速な高齢化が進み、また、健康寿命の改善もあり、定年延長や定年制の廃止などもされ、最近では70歳近くまで働く流れになってきています。働く意欲があり健康な方は高齢であっても働いて社会参画をしていくことが、社会にとって必要で、かつ高齢者自身にとってもQuality of Lifeを高めていくことにつながるのではないでしょうか。このようなことを考え、高齢者自らが自分の能力と経験を活かして働く場をつくるための支援活動「70歳からの起業支援」を7年前から始めました。

2. 70歳からの起業支援

KIRでは自らのアイデアで働ける場づくりを目指す方々の起業を支援するプロジェクトを運営しています。支援内容は、①起業のための調査や準備費用として1件当たり50万円の資金支援（年に1～2件程度）、②起業に関連する各種情報などの

提供やアドバイスなどです。これまでに下記のようなプロジェクトを支援してきました。

①認知症予防プログラムの事業化

②高齢者用の免許不要の乗り物の開発

③産業用ロボットの導入支援

④3Dプリンターを活用したCFRP製品実用化

今回は京機会会員の皆様にこの支援活動をご紹介し、概ね70歳以上の充実したシニアライフにつながる起業・創業を目指す方を支援しようと考えております。

3. 起業のイメージ

皆様が仕事の中で培ってこられたノウハウを生かせること、興味を持っておられること、実現したいこと、といった課題をもとに起業のアイデアをおまとめください。

例えば、①人材育成に関すること、②環境に関すること、③子育て、教育に関すること、④地場産品、伝統工芸に関すること、⑤情報化に関すること、⑥文化、芸術、スポーツ振興に関すること、⑦高齢化社会への対応に関すること等々です。

初めから大きな事業を目指すのではなく、スモールビジネスを立ち上げ、育てていくことが良いのではないかと考えており、6ヶ月～1年程度でこの支援を元に起業に結び付けば良いのではないかと考えております。

4. KIRの役割

①KIRは起業のアイデアをお持ちの方とお打合せし、そのご提案のアイデアの内容について一緒に検討させていただきます。そして、複数のご提案があれば比較検討をして、支援対象を一つに絞ります。また、必要に応じ、公設の起業支援塾（例えば、大阪産業創造館の創業チャレンジゼミ※）のご紹介などの支援をします。

②採用されたご提案に基づき、KIRにて支援金50万円を用意し、随時ご相談しながら、ご提案者のご請求に基づき必要経費をお支払いします。

③起業に至った場合、KIRでは情報提供を通じ事業の成長を応援します。

④事業が黒字化した時には、KIRは税引利益の一定割合を協力金として頂戴したいと考えております。（協力金は税引利益の15%程度、また3年間を想定してお

ります。）

※創業チャレンジゼミ（https://www.sansokan.jp/challenge/）

大阪市が国の認定を受けて実施する特定創業等支援事業。3ヶ月で6回の講義の受講と3回以上の面談があります。18,000円/人。募集人員16人/回。

5. お問合せ

以上の支援事業につきましてご興味のある方は下記の担当まで、ご一報ください。ご提案用紙など必要なお手続きにつきましてご説明と資料などを送らせていただきます。なお、その際ご提案の簡単な内容についてご説明をお願いいたします。

森本暁明（KIR理事・事務局長）: kiyoaki-morimoto@mvb.biglobe.ne.jp

中山平敏（KIR正会員）: yumine@d1.dion.ne.jp

以上